

資料1

「第2期いきいき市民健康プラン後期計画」に基づく
令和2年度の取り組みについて

目 次

「第2期いきいき市民健康プラン後期計画」に基づく令和2年度の取り組みについて	1 ページ
重点分野1 未来の健康をつくる生活習慣病予防	1 ページ
重点分野2 気づく、つながる、支える心の健康づくり	4 ページ
重点分野3 健康な心と身体を支える食生活	6 ページ
重点分野4 生きる力を支える歯と口の健康づくり	7 ページ
重点分野5 大切な人の健康を守るたばこ対策の推進	9 ページ
重点分野6 日頃から一人ひとりが取り組む感染症予防	10 ページ
重点分野を支える社会環境の改善・整備	11 ページ

◆各種健康診査の実施状況

<市民健康診査及び国保特定健康診査>

健診の種類	対象者	令和2年11月末現在		【参考】 令和元年11月末現在	
		受診者数	受診率	受診者数	受診率
基礎健診	35～39歳 35歳以上の生活保護受給者 75歳以上	34,788人	16.5%	36,449人	17.5%
国保特定健診	40～74歳の国保加入者(※1)	46,995人	32.5%	53,881人	36.8%
胃がん検診	35歳以上 (※1)	21,912人	3.2%	27,161人	3.9%
大腸がん検診	40歳以上	64,665人	10.4%	67,091人	10.9%
肺がん・結核健診	40歳以上	67,424人	10.9%	70,258人	11.4%
乳がん検診	30～39歳(超音波) (※1)	2,992人	4.3%	3,432人	4.8%
	40歳以上(マンモグラフィ併用)	22,031人	6.6%	26,426人	8.1%
子宮頸がん検診	20歳以上 (※1)	32,494人	7.0%	29,711人	6.5%
前立腺がん検診	50、55、60、65歳 (※1)	873人	3.3%	1,242人	4.7%
骨粗鬆症検診	40、50歳	3,027人	19.4%	2,326人	15.0%
歯周病検診	30、40、50、60、70歳	(※2)		6,659人	9.4%

(※1) 新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言によって、開始時期が例年より2週間～3ヶ月遅れたため、昨年度よりも短い実施期間での集計である。

(※2) 歯周病検診の集計は年度末に一括して行うため、令和2年11月末現在での受診者数及び受診率は未把握である。

<新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業>

下記の対象者に対し、乳がん検診と子宮頸がん検診の検診費用が無料となるクーポン券と検診手帳を送付し、がん検診の受診促進とがんの早期発見の啓発を行った(国補助事業)。

また、子宮頸がん検診クーポン対象者及び40歳の乳がん検診クーポン対象者のうち、未受診者に対して、はがきによる受診勧奨を実施した。(令和2年10月実施 10,751人)

検診名	対象者	対象者数	受診者数(受診率) 令和2年11月末現在
子宮頸がん検診	20歳の女性	5,693人	356人(6.3%)
乳がん検診	40歳の女性	6,836人	341人(5.0%)

(2) ピンクリボンオンライン講座の開催(令和2年10月28日)

若い世代の乳がんに対する意識向上を目的として、大学生を対象にオンライン形式での講座を開催した。「正しく知れば怖くない 乳がんの基礎知識」をテーマに東北医科薬科大学の鈴木昭彦教授が講話を行い、仙台白百合女子大学の学生が参加した。



3. 健診結果でリスクのある人への重症化予防の取り組み

(1) 保健指導の実施

仙台市国民健康保険特定健康診査及び仙台市基礎健康診査受診者のうち血圧・血糖(HbA1c)等の要医療判定で医療機関未受診の方へ受診勧奨と保健指導を行った。

- ・受診勧奨数 949 人（令和 2 年 11 月末現在）

(2) CKD（慢性腎臓病）病診連携体制の構築

慢性腎臓病の予防対策として、かかりつけ医と腎専門医の病診連携体制の構築に向け、医師会、かかりつけ医、腎専門医をメンバーとしたプロジェクト会議を立ち上げた。人工透析に至る前に、かかりつけ医から腎専門医にスムーズに紹介できる体制づくりについて、令和 3 年度からの開始に向け検討を重ねている。

4. 歩きやすい、運動しやすい環境づくり

(1) 仙台市まちなか歩数表示補助事業

歩きやすい環境の整備を目的に、散策コースや商店街に歩数表示の設置及び設置場所の周知を行う団体に対して助成を行っている。

- ・申請団体 3 件（令和 2 年 11 月末現在）
（YARVOG、青葉山・八木山フットパスの会、八木山地区まちづくり研究会）

(2) 若林区役所階段に階段利用を促す表示を掲示

来庁者や市職員の運動に関する意識を高めるため、若林区役所階段に、階段利用促進のメッセージを表示した。



(3) 身体活動量増加に向けた啓発動画の作成

働き盛り世代をメインターゲットに、会議前や休憩時間等のスキマ時間を有効活用した運動の動画を作成中である。(令和3年3月完成予定)

(4) コロナ禍での運動促進事業（公益財団法人仙台市健康福祉事業団との共催事業）

3密を避け身体を動かす機会として、勾当台公園野外音楽堂にて「青空ストレッチ」、時計型心拍数計を使用しながらウォーキングマップに沿って定禅寺通り・西公園周辺を個人で歩く「レッツ！！健幸ウォーキング」を開催した。

- ・レッツ！！健幸ウォーキング 6回開催 延べ70名参加
- ・青空ストレッチ 6回開催 延べ137名参加

重点分野2 気づく、つながる、支える心の健康づくり

悩みや不安を解消するための心の健康に関する情報発信を強化し、メンタルヘルス向上を推進する。さらに新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて高まるストレスの軽減につながる情報も発信していく。また、被災者の心の健康問題は、新たな環境で生活再建を果たした後も続いていることから、被災者の高齢化が進む状況を踏まえ、引き続き孤立防止や心の健康問題等に対して長期的な視野で支援を継続する。

1. 地域の相談窓口の周知・啓発

(1) 幅広い層の市民に対し、区役所・総合支所関係課や関係団体窓口におけるリーフレット及び啓発物の配布、市政だより掲載等による啓発を実施している。

(2) こころの体温計

パソコンやスマートフォンから、仙台市ホームページにアクセスし利用できるセルフメンタルチェックシステムにより、自身の心の状態がチェックできる。アクセス数が伸び悩んでいたため、市政だより（令和2年12月号）に掲載したところ、11～12月のアクセス数は8,234件となり、前年度11月～12月のアクセス数の約1.65倍となった。

こころの体温計

▼パソコンはこちらからご利用いただけます。
<https://fishbowlindex.jp/koshi/>

こころの体温計 (本人モード)
ご本人の健康状態や人間関係、住環境などのストレス度や落ち込み度が、水槽の中で泳ぐ金魚、猫などの絵になって表示されます。

家族モード
あなたの大切な方の心の健康状態が分かります。

赤ちゃんママモード
産後の不安な心の健康状態が分かります。

アルコールチェックモード
飲酒が心にどのような影響を与えているのが分かります。

ストレス対処タイプテスト
あなたのストレス解消法はどのタイプ？

ねこ 社会的なストレス
水槽のヒビ 住環境のストレス
黒金魚 対人関係のストレス
赤金魚 自分自身のストレス
水の透明度 落ち込み度
石 その他のストレス

低 ← → 高

【赤金魚】 自分の病気などのストレス

【黒金魚】 対人関係のストレス

存在しない

【ネコ】 社会的なストレス

【金魚鉢のヒビ】 住環境のストレス

【水の透明度】 落ち込み度

(3) ゲートキーパー養成研修

心の健康づくりを推進するため、地域の関係団体や職域等と連携し、ゲートキーパー養成研修を実施した。

- ・開催回数：7回 参加者：延べ392人（令和2年11月末現在）

(4) 「生活困りごとと、こころの健康相談会」の開催

(定例月1回・キャンペーン相談会年2回)

弁護士・司法書士による生活の困りごとに関する相談とあわせて、精神科医師・保健師・臨床心理士・精神保健福祉士等による心の健康に関する相談を実施した。

(4月、5月は新型コロナウイルスの影響により中止)

・定例相談会：6回(19件)、キャンペーン相談会：1回(11件)(令和2年11月末現在)

(5) 「仕事とこころの相談会(夜間)」の開催

勤労者も相談しやすい平日の夜間に、エル・パーク仙台を会場に相談会を実施した。弁護士・臨床心理士が、パワーハラスメントや職場の人間関係等の様々な相談に対応している。

・開催回数：7回 相談件数：9件(令和2年11月末現在)

(6) 「無料法律相談とこころの健康相談会」の開催(月1回・土曜日開催)

弁護士による専門相談と、カウンセラーによる心の相談を一体的に実施している。

(4月、5月は新型コロナウイルスの影響により中止)

・相談件数：75件(法律相談：57件 心の相談：18件)(令和2年11月末現在)

(7) 「仙台いのち支えるLINE相談／暮らし支える総合相談」の実施

・仙台いのち支えるLINE相談(令和2年12月21日から令和3年3月31日)

相談延件数：138件(令和3年1月19日現在)

・暮らし支える総合相談(令和2年10月1日から令和3年3月31日)

相談延件数：43件(令和2年11月末現在)

・全国健康保険協会宮城支部の協力の下、働き盛りの世代をターゲットに、チラシ送付(宮城支部の広報誌に同封)による周知を行った。

(健康づくりに取り組む事業所 約5,200事業所)



2. 震災後のこころのケアに関する啓発と被災者支援

(1) 復興公営住宅入居者等への支援

各区保健福祉センターや精神保健福祉総合センター等において、復興公営住宅入居者等への訪問や面接・電話などによる個別支援を継続して実施している。また、郵送による健康調査を通して健康や生活の状況を把握し、必要に応じて支援を行っている。

復興公営住宅近隣のスーパーマーケットで「まちの保健室」を開催し、被災者が身近な場で気軽に相談できる場の提供、支援を行っている。

・開催場所：ヤマザワ田子店、ヤマザワ荒井店、みやぎ生協荒井店

・開催回数：8回 延参加人数：128人(令和2年11月末現在)

(2) コミュニティ形成支援を通じた心のケアの実施

自治組織や関係機関・団体と連携し、健康相談会や健康教室、サロン等のコミュニティ形成支援を通じた心のケアに関する取り組みを実施している。

- ・開催回数：70回 延参加人数：599人（令和2年11月末現在）

重点分野3 健康な心と身体を支える食生活

平成30年3月に策定した「仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画」と連動し、乳幼児からの基本的な食習慣の形成と青年期の食生活改善への意識を高めるための働きかけ、高齢者の低栄養予防に関する知識の普及と実践支援に取り組んでいる。

1. 生活習慣病予防のための食生活の啓発

(1) 青年期から壮年期に向けた facebook による食生活についての啓発

令和2年8月から、食と健康をテーマとした健康政策課 facebook ページ「伊達なキッチン～だてきち～」を開設した。

週1回の投稿により、健康的な食生活についてのコラムのほか、手軽にできる野菜たっぷりレシピや朝食レシピなどを写真付きで掲載し、情報を発信している。



(2) 健康お役立ちレシピコンテストの開催

市民が主体となる健康的な食習慣づくりを推進することを目的として、「減塩レシピ部門」「野菜たっぷりワンプレートレシピ部門」の2つの部門でレシピコンテストを開催した。優秀作品については仙台市ホームページや健康政策課 facebook ページで紹介するほか、レシピ集を作成し、区役所・総合支所窓口等で配布のほか、健診の事後指導や個別相談などにおいて活用していく予定。

(3) 食育月間関連事業（令和2年6～7月）

- ・区役所、総合支所庁舎内を会場に、パネル・ポスター展示、レシピ等を配布した。
- ・市政だより、庁内放送、庁内ディスプレイ等を活用した周知を実施した。
- ・その他、期間中に各種母子保健事業、健康増進事業で啓発資料を配布した。

2. 青年期における健康的な食生活の重要性と改善への啓発強化

保健福祉センターにおいて、管内の大学や専門学校へ資料の配布により健康的な食習慣についての啓発を行っている。

また、令和元年度の「大学生の食育ワークショップ」において学生が作成した「Let's ベジライフ～野菜を使ったレシピ集～」を配布し野菜の摂取についても啓発を行った。



3. 高齢者のフレイル、低栄養予防についての知識普及と実践への啓発

保健福祉センター・総合支所が、フレイル予防の食生活についての資料を活用し、高齢者向け健康教育・健康相談や介護予防運動サポーター研修で配布するとともに、低栄養についての講話および個別相談を実施している。

- ・高齢者向け地域健康教育：2回 56人参加（令和2年11月末現在）
- ・介護予防運動サポーター研修会での栄養講話：2回 27人参加（令和2年11月末現在）
- ・電話や来所等による相談 54件（令和2年11月末現在）

4. 食生活改善の実践のための環境整備

(1) 食で健康サポート店推進事業

食で健康サポート店（栄養成分表示、バランスメニュー、野菜たっぷりメニュー、塩エコメニューを提供する店舗）の募集、登録事業を実施している。

(2) 仙台市「食育推進」ロゴマークの作成

市民に広く「食育」を周知・啓発し、仙台市や関係団体等が一体となって食育を推進していくための共通のツールとして、仙台市「食育推進」ロゴマークを作成した。作成に当たっては、若い世代が食育に興味を持てるよう、市内美術系大学の学生からデザインを募集した。



今後、仙台市及び仙台市食育推進会議関係団体の食育活動においてロゴマークを活用するとともに、食育を進めようとする団体または個人においてもロゴマークの使用を許可し、「食育」が市民にとって身近なものとなるように活動を進めていく。（ロゴマーク制作者：東北生活文化大学2年 学生）

重点分野4 生きる力を支える歯と口の健康づくり

「歯と口の健康づくり後期計画」及び「アクションプラン（平成30年3月）」に基づき、メインターゲット世代を優先的・重点的に取り組んでいる。乳幼児期は、小児科と歯科・行政等、多職種連携により進める新規事業「フッ化物歯面塗布助成事業」の効果的な実施に向けた体制整備に努めた。また、「学齢期の歯と口の健康づくりマニュアル（令和2年3月）」やダウンロード用学習資材を制作し、小・中・高等学校を通じた、児童・生徒への健康教育や保健指導の充実強化を図った。更に、青年期からの歯周病検診の受診勧奨やかかりつけ歯科医を持つことの重要性等の啓発活動に取り組んだ。

1. 乳歯萌出期からのむし歯予防対策「フッ化物歯面塗布助成事業」開始に伴う体制整備

小児科・歯科・行政等の連携により取り組む「フッ化物歯面塗布助成事業」の開始（令和3年度）に伴い、各種啓発媒体を制作するとともに、登録歯科医療機関向け事業マニュアルを作成し、効果的な保健指導のあり方等を共有した。

- (1) 「フッ化物歯面塗布助成事業マニュアル」を作成し、歯科医療機関を対象にリモート研修を実施した。

- ・開催日：令和3年1月14日（木）
- ・受講人数 252人
- ・登録歯科医療機関 252件（後日確定）
- ・登録歯科医療機関ステッカーを配布（今後掲示予定）



(2) 乳幼児の保護者向け啓発ツール「☆せんだい☆でんたるノートF」等を制作

乳歯の萌出期である8-9か月児健診において、小児科が保健指導とともに配布する「☆せんだい☆でんたるノートF」を制作した。

ノートには年齢に応じた「食習慣の留意点」や「歯のみがき方」「歯科医療機関でのフッ化物歯面塗布の記録」等を盛り込んでいる。

保護者と「かかりつけ歯科医」を始めとする関係主体が連携してカリエスフリー（むし歯ゼロ）を目指すツールとして位置付けている。



2. 幼児期後半からのむし歯予防対策の環境整備の推進 【詳細はP14 参照】

保育・教育施設における効果的なフッ化物洗口の実施を支援し、子どものむし歯の地域差・個人差の解消を図る。

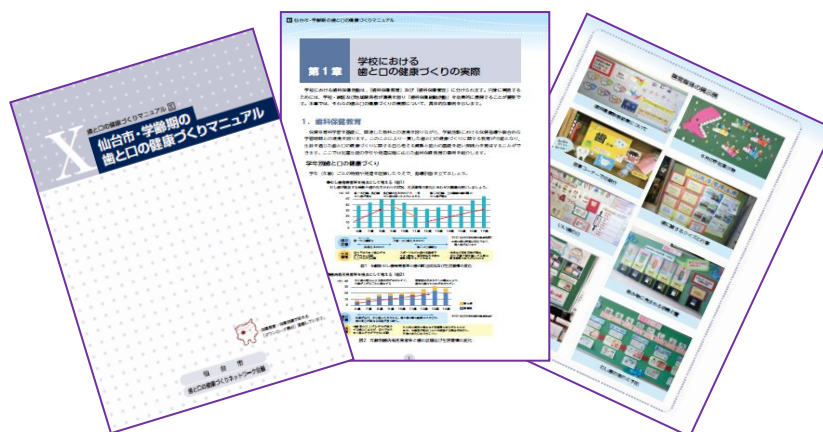
今年度は、コロナ禍における歯と口の健康づくりのポイントをまとめた媒体を用いて啓発した。



3. 学齢期の歯と口の健康づくり各種資料作成

学齢期の歯科保健意識の向上や行動の改善を図ることを目的に、小・中・高等学校において、児童生徒への保健指導や健康教育に活用できるダウンロード用媒体やマニュアルを作成した。

更に学校運用システムに格納し、タイムリーに活用できる体制整備を図った。



4. 青年期からの歯周病予防に向けたセルフケア能力向上支援と専門家によるケアの強化

歯と口の健康週間（令和2年6月4～10日）に合わせて、青年期や妊娠期からの歯周病検診の受診勧奨や、かかりつけ歯科医を持つことの重要性等を、SNSや地域情報誌等に掲載し啓発を強化した。また、20歳のデンタルケア事業の受診券利用勧奨対策を行った。

重点分野5 大切な人の健康を守るたばこ対策の推進

たばこによる健康影響から市民を守り、健康で快適に過ごすことのできる「受動喫煙防止」のまちづくりのため、受動喫煙防止の環境づくりや喫煙率の減少・次世代の健康の確保に向けた取り組みを進めている。

1. たばこが及ぼす健康影響についての啓発

世界禁煙デー（令和2年5月31日）を中心に、各学校（幼稚園、小中高等学校、専門学校、大学）及び児童館と連携し、情報提供や啓発をした。

2. 妊産婦や家族に対する喫煙が及ぼす健康影響や再喫煙防止についての啓発と保健指導

（1）母子健康手帳交付時に、妊婦の家族を対象に受動喫煙についてのチラシを配布し、啓発を実施した。

（2）新生児訪問や3～4か月児育児教室等の機会に、保護者自身の健康影響と、子どもへの受動喫煙に関して情報提供し、再喫煙防止について啓発や情報提供を実施した。

3. たばこをやめたい人への禁煙支援

（1）たばこをやめたい人への禁煙支援を各区保健福祉センターで実施した。

・支援者数：24人 禁煙成功者：7人 継続支援者：10人（令和2年11月末現在）

（2）世界禁煙デー関連行事（パネル展、禁煙相談会など）やホームページ等の啓発媒体を活用し、禁煙支援や禁煙方法・場所等に関する情報提供を行った。

4. 受動喫煙防止対策のさらなる推進

（1）ガイドラインに基づいた対策の推進、受動喫煙の健康影響・慢性閉塞性肺疾患（COPD）についての周知・啓発

①平成26年3月に策定した「仙台市受動喫煙防止対策ガイドライン（令和元年6月改訂）」に基づき、受動喫煙防止対策の必要性や、受動喫煙防止対策の望ましい姿等についての周知・啓発を行った。

②世界禁煙デー（令和2年5月31日）の関連事業の実施

市立施設・医療施設・教育施設・飲食店・旅館等でのポスター掲示、禁煙相談会の開催等

(2) 事業所に向けた受動喫煙防止対策の啓発

①「受動喫煙防止宣言施設」の登録推進

宮城県、全国健康保険協会宮城支部と連携し、お客様や従業員の健康に配慮し、施設・事業所の敷地内または建物内の禁煙に取り組んでいる施設や事業所を「受動喫煙防止宣言施設」として登録している。

・登録施設数：1,195件 うち仙台市所在の施設は642件（令和2年12月1日現在）

②改正健康増進法に係る飲食店やビル管理者等への周知・啓発

・飲食店やビル管理者を対象とした仙台市受動喫煙防止対策個別相談会の実施

開催回数：4回 参加者：30名

・啓発リーフレットを作成し、各区衛生課窓口において飲食店等へ配布している。

重点分野6 日頃から一人ひとりが取り組む感染症予防

感染症の蔓延や重症化を防止するため、感染症に関する正しい知識の普及・啓発に努めるとともに、定期予防接種の接種勧奨に取り組んでいる。

また、エイズや性感染症、ウイルス性肝炎については無料検査を実施し早期発見に努めている。

先天性風しん症候群の発生を防止するため、これまで風しんに係る公的な予防接種を受ける機会がなかった世代の成人男性へ抗体検査・予防接種を、また、妊娠を希望する女性等へ風しん抗体検査を無料で実施している。

1. 感染症に関する正しい知識の普及・啓発とタイムリーな感染症流行情報の提供

(1) 新型コロナウイルス感染症の発生を受け、発生状況等を踏まえた仙台市感染制御地域支援チームの専門家のコメントを掲載した週報・月報、また、毎日検査実施状況や陽性者数をホームページへ掲載することで、市民に対する注意啓発を行っている。

相談・検査体制として、県と合同で受診・相談センターを設置し、不安な症状のある方へ医療機関の紹介等を行うとともに、帰国者・接触者外来や検査実施医療機関で検査を実施している。

医療提供体制として、陽性が判明した方に対して、県と合同で運営する医療調整本部において、専門の医師の判断により、入院や宿泊療養、外来アセスにつなげている。

自宅療養の方には、支援物資を送付するとともに、症状等により必要な方には、パルスオキシメーターを貸し出すなど、患者への支援に努めている。

(2) 東北大学及び仙台市医師会と連携してインフルエンザ予防ポスター（咳エチケット、手洗い励行）を作成し、医療機関、学校及び社会福祉施設等約1,600施設に配布。

（令和2年12月に配布済）

2. 予防接種事業

(1) 予防接種については、個別通知やホームページ等により接種勧奨を行う。また、接種スケジュールが複雑化しており、接種制度について十分な周知に努めた。

- (2) 子育て支援の観点から、里帰りなどで県外において定期予防接種を受けた者への接種費用助成を行った。
- ・助成件数：215 件（令和 2 年 12 月末現在）
- (3) 個人ごとの予防接種履歴を把握することで未接種者への効果的な接種勧奨を行うため、平成 29 年 9 月より、予防接種台帳システムを稼働した。定期接種および市実施の任意接種の接種履歴について台帳管理を行い、予接種状況等について分析を行っている。

3. HIV・性感染症検査体制や相談・カウンセリングの充実

- (1) 検査予約の利便性を図るため、電話に加えインターネットでの検査予約を実施している。
- ・検査予約件数：505 件（令和 2 年 12 月末現在）
- (2) 各区役所等で HIV・性感染症検査を継続実施している。（※新型コロナウイルス感染症対応のため、一部検査を休止中。）
- ・HIV 検査：378 件、梅毒検査：377 件、クラミジア検査：10 件
（令和 2 年 12 月末現在）
- (3) NPO 団体との連携を継続し、スマートフォン・アプリ向けの検査啓発広告を掲載するとともに、インターネットサイト「仙台 HIV ネット」の運営を継続している。

重点分野を支える社会環境の改善・整備

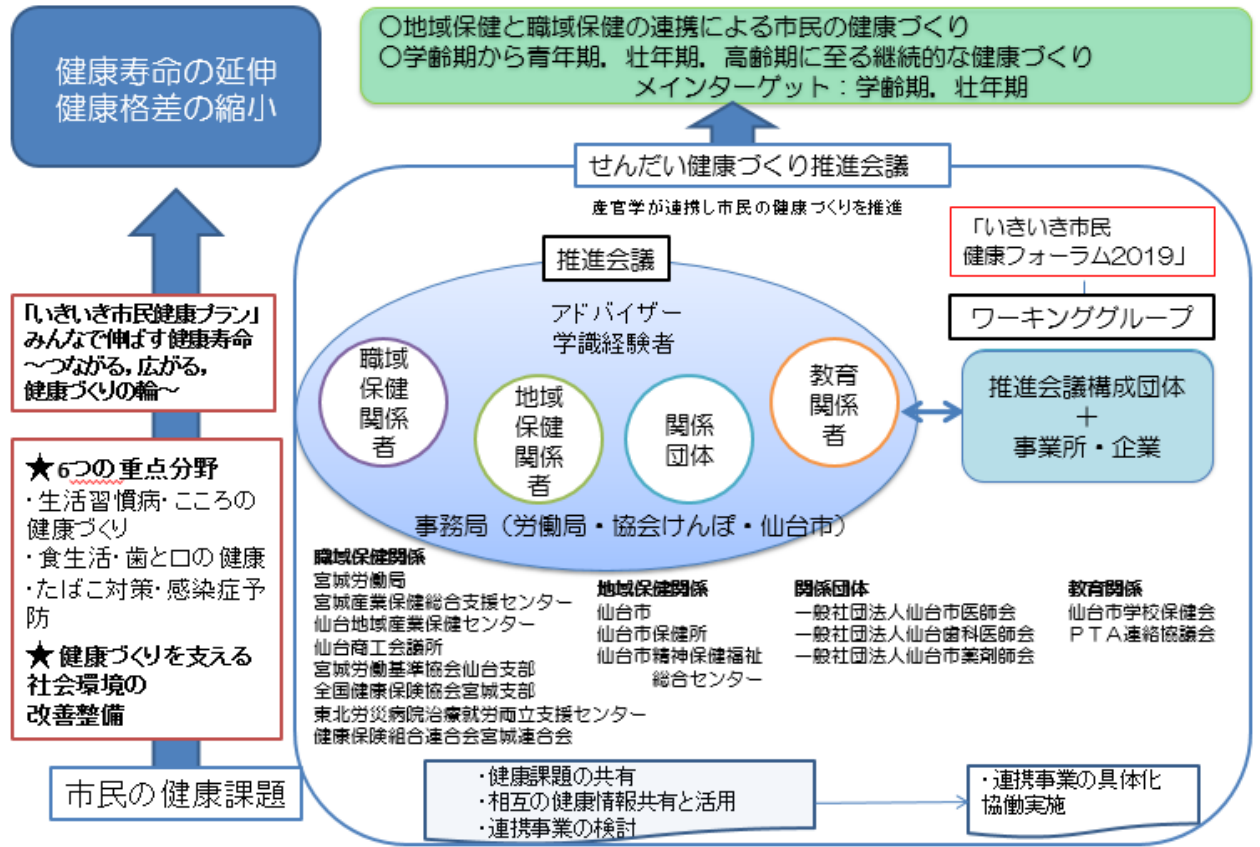
後期計画では、6つの重点分野における健康づくりを支える柱として、新たに「重点分野を支える社会環境の改善・整備」を位置付けている。新型コロナウイルスによる影響が長期化する中、健康づくりの環境整備のために、仙台市関係課、健康づくりに取り組む各関係団体・企業・学校関係者等との連携により、異業種の垣根を超えて、市民の健康を守る体制づくりの推進を図る。

(1) せんだい健康づくり推進会議

令和元年度、地域保健と職域保健の連携による市民の健康づくり及び学齢期から青年期、壮年期、高齢期に至る継続的な健康づくりを推進することを目的とし、「せんだい健康づくり推進会議」（以下会議）を設置した。会議は「働く市民の健康づくりネットワーク会議」を再構成し、職域保健関係・地域保健関係・医療関係に加え、新たに仙台市学校保健会と仙台市 PTA 連絡協議会を構成員としている。また、会議内にワーキンググループを設置し、協働事業を実施するなど、健康づくりに取り組む各関係団体及び企業等との連携による取り組みを実施してきた。

令和 2 年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、同会議及びワーキンググループを书面開催とし、各構成団体及び企業から、コロナ禍における健康づくりの取り組み等について、意見及び提案を募った。

せんだい健康づくり推進会議



(2) 産業界との連携

①ヘルステック推進事業への参加

ヘルステック推進事業は、医療・ヘルスケア分野にIT企業の参入を促し、課題解決を図る取組みである。経済局が所管する「仙台市経済成長戦略2023」の7つの重点プロジェクトの一つとして、経済局と(株)フィリップス・ジャパンが協働で進めている。健康政策分野は、健康課題の提示等の役割を担い、関係企業による具体の事業化を目指している。

②健康長寿産業連合会における情報収集・連携

「健康長寿産業連合会」は、健康寿命の延伸に関する業界の垣根を越えた活動や官民一体となった社会課題への取組みにより、健康長寿産業の振興を図ることを目的とし、日本のトップ企業により設立された任意団体である。本市は、令和元年度より、ワーキンググループにオブザーバー会員として入会している。

令和2年度においては、「ヘルスリテラシーおよび意思決定プロセスが健康行動に及ぼす影響に関するWeb調査」への協力等により連携した。

③民間企業との連携

民間企業等との連携窓口「クロス・センダイ・ラボ」を通じ、リコー・ジャパンの社員を対象にアンケート調査を実施。社内で実施した「ウオーキングチャレンジプログラム」の効果を把握し、令和3年度の働く世代のイベント企画の参考とする。

(3) 仙台市関係課との連携強化

「新交通プラン」、「仙台市緑の基本計画」、「都市再生整備計画」、「仙台市自転車の安全利活用推進計画」の見直しや、次期計画策定に係る庁内関係会議への参加。市の健康課題、健康づくり分野の施策について計画に反映。

《各分野における強化すべき社会環境の改善・整備》

重点分野1：生活習慣病予防

(1) 歩きやすい、運動しやすい環境づくり

歩きやすい環境の整備を目的に、歩数アップのための啓発表示に要する事業経費の助成を行い、散策コースや商店街、通学路等に歩数表示の看板を設置している。

(2) がん検診受診率向上企業連携協定企業や関係団体・企業等と連携し、健康づくりやがん検診受診率向上を目指す。

- ①乳がんの啓発のために、ピンクリボン仙台推進委員会としてオンライン形式での講座を開催した。
- ②市民健診啓発グッズの配布を行う。

重点分野2：心の健康づくり

(1) 幅広い層の市民に対し、区役所・総合支所及び関係課窓口及び関係団体窓口におけるリーフレット及び啓発物の配布、市政だよりや市ホームページ上での掲載等による啓発を実施。

(2) 専門職のカウンセラー（保健師、臨床心理士、精神科医師等）や弁護士等による、心の健康及び生活の困りごとに関する相談会等を開催し、相談の機会を確保する。

重点分野3：健康的な食生活

(1) 地域における食育推進関係者の交流会、研修会の開催による人材育成

保育施設、幼稚園、学校、児童館、食育ボランティア等、子どもの健康づくりや食育に関わる各機関の担当者が、講演、事例発表、情報交換等を通して資質向上と連携推進を図り、地域における食育活動の活発化に資することを目的として、各区保健福祉センター、総合支所が実施している。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により情報交換会に代えて啓発資料の送付を行った。

- ・対象施設への啓発資料の発送 128施設、保育所を対象とした講演会 1回

(2) 「食で健康サポート店」登録推進事業

健康に配慮した食事選択の参考に、栄養成分表示や野菜たっぷりメニューなどを提供する飲食店を「食で健康サポート店」として募集、登録し、市民に情報提供することにより健康づくりを支援する。

- ・参加店舗数：91店舗（令和2年11月末現在）

重点分野 4：歯と口の健康づくり

(1) 「3歳児カリエスフリー（むし歯ゼロ）」を目指し、多職種連携で取り組む「フッ化物歯面塗布助成事業（令和3年度開始）」を新設

乳歯の萌出時期からの良好な歯科保健習慣の定着と継続的な予防管理の受診に向けて、登録歯科医療機関の増加を図るとともに関係主体へ取組の周知を図り、支援の在り方を共有した。

①登録歯科医療機関

・令和3年度：252件（後日確定）

②8～9か月児健診登録医療機関への周知及び「☆せんだい☆でんたるノートF」配布依頼

・登録医療機関（小児科医等）：68施設

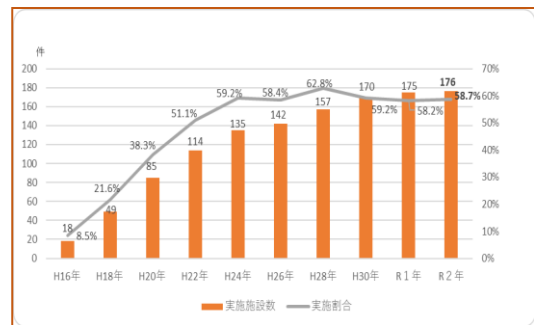
・「☆せんだい☆でんたるノートF」作成部数：16,000部

(2) フッ化物洗口を実施する保育所・教育施設の増加・拡大

子供の家庭環境に左右されることなく、全員が一様にむし歯予防に取り組むことができるよう保育・教育施設におけるフッ化物洗口導入・拡大を支援する。

①保育所・幼稚園・認定こども園における

フッ化物洗口実施施設：176件（実施率：58.7%）

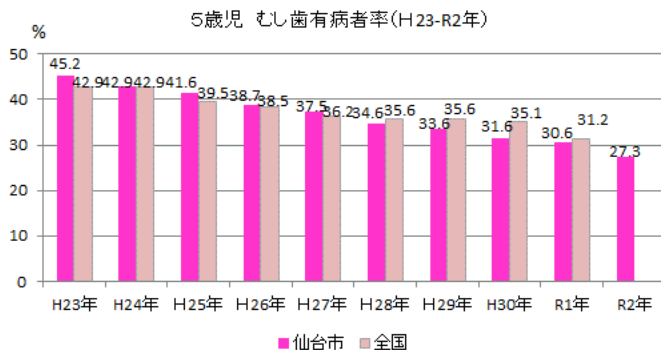


②小学校におけるフッ化物洗口パイロット事業（実施主体：（一社）仙台歯科医師会）

学校、PTA、教育委員会、学校歯科医が連携し、市内2校の小学校（折立小学校、秋保小学校）で実施中である。

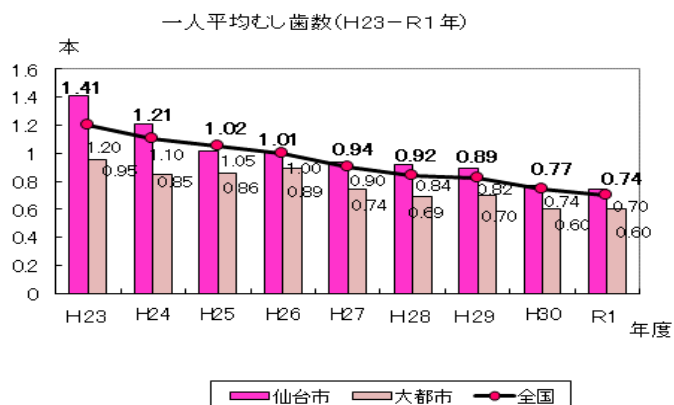
◇健康指標「むし歯のない5歳児の増加」

乳歯のむし歯のない5歳児は増加傾向にあり、平成28年度より全国を上回っている。



◇健康指標「12歳児一人平均むし歯数の減少」

永久歯の一人平均むし歯数は減少傾向にあるが、全国値・大都市平均に比べ劣っている。乳幼児期から学齢期まで連続した対策を推進する必要がある



重点分野5：たばこ対策

宮城県・全国健康保険協会宮城支部と連携し、受動喫煙防止宣言施設の登録制度参加施設増加を目指す。

- ①全国健康保険協会宮城支部が加入者に対して、登録をすすめるための周知を実施した。
- ②宮城県が地元新聞に受動喫煙防止宣言施設の登録制度について、啓発広告を掲載した。
- ③登録施設数は1,193件。うち仙台市所在の施設は642件。(令和2年11月1日現在)

重点分野6：感染症予防

関係機関・団体と連携して、感染症予防の市民啓発を進めるとともに、感染症にかかる検査体制のさらなる充実を図る。